

とともにその技術開発が必要である。

不必要な波長領域の赤外線を除くし雑音を少なくする近接赤外線の分離のためフィルターの開発も必要である。狭い領域の赤外フィルタは多層蒸着膜が用いられているが日本でも早急にその製作技術を完成する必要がある。さらに高分解能が必要な場合は回析格子が必要であるが、小型、軽量、耐震性に重点を置いて開発すべきであろう。

以上述べたように光学系との組合せを容易にできる LiNbO_3 結晶を使用しての $1 \times 1 \text{ mm}^2$ の正確な素子を製作する技術は十分に実用に堪えるまでに確立できたと云ってよい。

おわりに論文のまとめにあたって御助言を頂いた東京

航空気象台の神子敏朗予報官、気象研の村井潔三、加納宗靖の両博士に謝意を表します。

参考文献

- 1) 土屋 清・山香英三, 1970: 気象衛星搭載用赤外放射計について, 天気, **7**, 265-272.
- 2) 山香英三, 1970: 焦電効果と赤外検出器への応用, 電子材料, **9**, 155-160.
- 3) H.P. Beerman, 1967: Pyroelectric infrared radiation detector. Ceramic Bulletin, **46**, 737-740.
- 4) J.H. Ludlow et, al. 1967: Infra-red radiation detection by the pyroelectric effect. J.of Scientific Instrument, **44**, 691-696.
- 5) 高見勝巳他, 1968: 焦電効果を利用した赤外線検出器, 応用物理, **37**, 147-156.

気象学会および関連学会行事予定

行 事 名	開催年月日	主催団体等	場 所
北海道支部研究会	" 3月9日	北海道支部	北海道大学
春季講演会	" 3月25日	日本気象学会	海洋研究所
海洋と気象のシンポジウム	" 4月6日	日本気象学会, 他	気象庁
日本気象学会総会 および春季大会	" 5月24日 ~29日	日本気象学会(東大)	気象庁
THIRD INTERNATIONAL CONFERENCE ON WIND EFFECTS ON BUILDINGS AND STRUCTURES	" 9月6~11日	(気象学会後援)	東 京